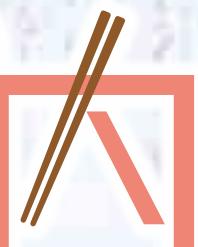


# 薩摩川内市広報 薩摩川内

さつませんたい



2025(令和7)年  
vol.490

おいしい  
いただきます！



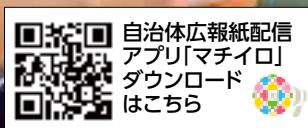
薩摩川内市誕生20周年



LINE



友だち  
募集中



自治体広報紙配信  
アプリ「マチiro」  
ダウンロード  
はこちら





毎日、僕たちのために  
栄養バランスを考え  
作ってくれてありがとうございます！

いつもおいしい給食を作ってくれて、うれしいです！

中学生になつたら、量  
が増えるので楽しみで  
す！



定番のカレーが  
1番好きです！

全部おいしい！

星型のコロッケが  
好きです！

ザートだったら  
ルーツポンチが好き！

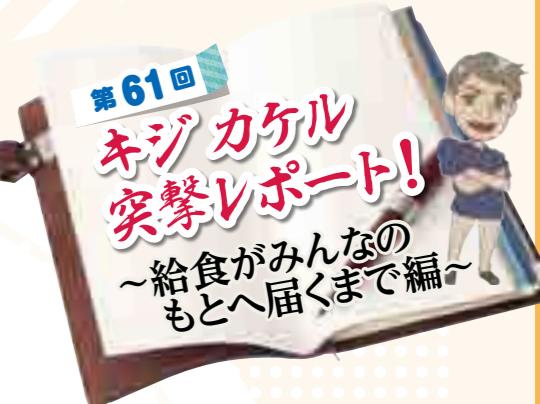
1年間、  
残しませんでした！

100

中学3年生を対象に、卒業前にどのような給食を食べたいかアンケートを取り、「リクエスト給食」を実施しています。ここではそのアンケートを基に、



皆さんは学校給食がどのようにして届いているか知っていますか。本市には、川内、樋脇、入来(改修中)、下甑の5つの学校給食センターがあり、市内の幼稚園や小中学校、義務教育学校に届けられています。今回は、市内で最も多くの給食を作り、川内学校給食センターに潜入し、給食が届くまでの過程や、給食に関わる人々についてお話をします。



元の

献立はどのようにして決めていますか？

栄養バランスを考えることはもちろん、地産地消の取り組みとして旬の野菜を使うようにしたり、その時期の行事食や郷土料理を取り入れたりするために、年間の献立計画を立てています。

また、川内学校給食センターは、一日に約7600食を作る県内で2番目に大きい給食センターです。調理時間を考えて、献立はAとBに分けて立てています。40人の調理員で確実に時間内に作れるように調理方法のバランスを考えています。

献立を立てるうえで配慮していることがありますか？



100

どんなときにやりがいを感じますか？

学校に行つたときに、子どもたちが「おいしかった」「食べられなかつたものが食べられるようになつた」などと言つてくれることが本当にうれしいです。

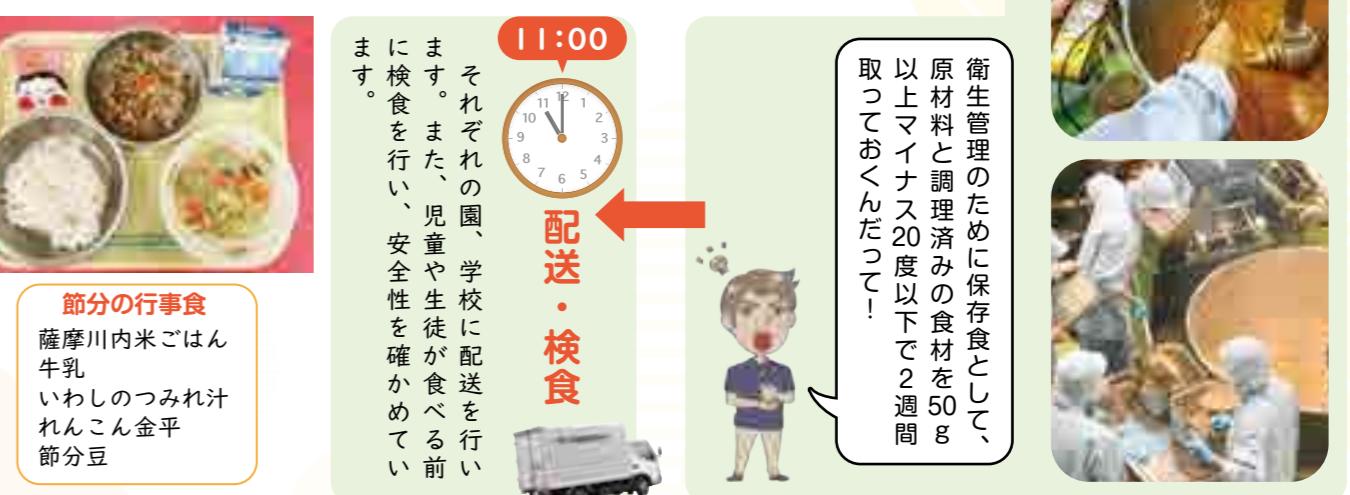
私たち栄養教諭は食の指導なども行つていますが、終わつた後に子どもたちから感想文が届くことがあります

給食センターから、皆さんへ  
いつも学校給食を食べてくれてありがとうございます。毎日たくさんのが愛情を込めて作っていますので、食缶が空になって返ってくるととてもうれしいです。これからも、おいしく食べてください。

また、食材を納入してくださる業者の皆さん、いつも質の良い食材を納入していただき、ありがとうございます。これからも衛生的な施設管理の下、安全安心でおいしい給食の提供に努めていきます。



## ▲市ホーム ^=ジ



出会い！  
体験！  
感動！

# 「てらやまんち」に行つてみよう！

★誰が利用できるの？

研修を目的とする5人以上の団体であれば、利用が可能です。

※営利目的は不可

例：保育園（保育所・認定こども園・地域型保育事業、幼稚園・学校、PTA、スポーツ少年団、子ども会、部活動、家族企業など）

★利用申込と料金は？

事前に利用希望日と活動内容を相談して使用許可申請書を利用日の20日前までに提出してください。

感動の自然  
「てらやまんち」の愛称で親しまれている少年自然の家は、標高230mの寺山に位置し、シイ・タブノキなどの常緑広葉樹林やアオモジやアカメガシワなどの照葉樹林、野鳥や山野草など豊かな自然に恵まれた環境にあります。

わくわくする体験活動  
「てらやまんち」では、自然体験活動や野外活動、創作活動などのプログラム、季節のイベントや家族向けのイベント。さらに、大人・シニア向けの講座など、たくさん活動が体験できます。

▼自然観察活動・天体観察、プラネタリウム鑑賞など  
▼野外活動・野外炊飯、自転車モトクロスなど  
▼創作活動・藍染め、陶芸、焼板木工など30種類以上  
▼季節や家族向けのイベント・子ども日フェスティバル、アーニー自然体験隊、新年を迎える手作りのつどいなど  
▼大人やシニア向けのイベント・森の学校など

最高の景色

九州新幹線や肥薩おれんじ鉄道の車両が走行する姿や、雄大な流れの川内川などを見ることができます。また、夜景の美しい市街地や満点の星空も見るこ



▲親子教室の様子

▲寺山から見た市街地



野外炊飯・その他施設



本館・プレイホール・宿泊棟



野外活動施設



キャンプ・野外宿泊施設



▲夏のアドベンチャーで甑島の海を楽しむ様子

**参加者の声**

**【集団宿泊学習で利用】**  
さまざまな活動を通して、協力や時間の大切さなどを学び、成長することができました。

**【冬のアドベンチャーで利用】**  
二泊三日で何度も自分に負けそうになることがありました。しかし、みんなと協力して過ごすことで、乗り越えることができました。

「てらやまんち」は、子どもたちが困難に挑み、自信を深める場、豊かな自然を感じて感動する場、人との交流の場、家族の触れ合いの場、生きがいづくりの場です。「てらやまんち」でさまざまな体験をしてみませんか。

▲少年自然の家ホームページ



問合先／少年自然の家  
(29)2114

行こうよ!

# 書館へ



▲図書館  
ホームページ

令和7年度の移動図書館巡回日程は下表のとおりです。

※利用の際は、図書館利用者カードが必要です。

(カードは、巡回場所で作成の手続きができますので、マイナンバーカードや運転免許証、健康保険証など、本人確認ができるものをお持ちください。)



巡回日／毎月1回  
貸出期間／次の巡回日まで  
貸出冊数／10冊まで



## 本土区域一般コース

巡回場所および予定時間 問合先／中央図書館 09969(2)3542			巡回日											
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
午前	和光園	さとのもり保育園	永利馬場自治会館	17日	15日	19日	17日	21日	18日	16日	20日	18日	15日	19日
	9:30～9:45	⇒	9:50～10:10	⇒	10:20～10:40									
	通脇公民館	センノオト												
午後	⇒ 11:40～11:55	⇒	12:15～12:40											
	自衛隊官舎	勝目団地	九電平佐住宅											
	14:20～14:40	⇒	15:00～15:20	⇒	15:40～16:00									

第3木曜日

## 甑島区域巡回コース

地域	巡回場所および予定時間 問合先／里分館(里教育駐在) 09969(3)2311、上甑分館(甑島教育課) 09969(2)0031 下甑分館(下甑教育駐在) 09969(7)0311、鹿島分館(鹿島教育駐在) 09969(4)2211				巡回日											
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
下甑・鹿島	海星中学校	かのこ幼稚園	敬老園バス停	薬師市営住宅	11日	9日	6日	4日	5日	3日	7日	5日	9日	6日	6日	
	13:10～13:30	⇒	14:40～15:00	⇒	15:15～15:45	⇒	15:55～16:20									
	手打小学校	西山地区コミュニティセンター			14日	12日	9日	7日	8日	6日	10日	8日	13日	9日	9日	
	13:10～13:40	⇒	14:30～15:00													
上甑	長浜小学校	鹿島公民館			15日	13日	10日	8日	9日	7日	11日	9日	14日	10日	10日	
	12:50～13:20	⇒	14:30～16:00													
	中津小学校	甑島振興局			16日	14日	11日	9日	10日	8日	12日	10日	15日	12日	11日	
里	13:10～13:40	⇒	14:00～16:00													
	里中学校	里小学校	里公民館		17日	15日	12日	10日	11日	9日	13日	11日	16日	13日	12日	
	12:55～13:10	⇒	13:15～13:45	⇒	14:00～15:30											

※8月は巡回しません。

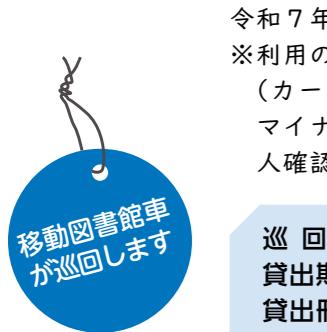
※悪天候やその他の事情により巡回日を変更または中止する場合があります。

※到着時間が多少遅れる場合があります。

※移動図書館車で借りた本は、次回の巡回日に返却するようになっていますので、ご協力をお願いします。

※利用の際は、図書館利用者カードが必要です。  
(カードは、巡回場所で作成の手続きができますので、マイナンバーカードや運転免許証、健康保険証など、本人確認ができるものをお持ちください。)

巡回日／毎月1回  
貸出期間／次の巡回日まで  
貸出冊数／10冊まで



問合先＝本庁産業戦略課グローバルG(内線5771)



▲市ホームページ

県内在住の中高生を開発途上国に派遣し、ホームステイや学校施設などでの交流を通して、相互理解を深めることを目的としています。また、現地で開発途上国の国づくりに貢献している青年海外協力隊員の活動現場の視察や現地での協力活動を行っていきます。派遣後には、活動報告会などを行うことで、学校や地元に還元し、地域レベルでの国際化に寄与します。



スタディツアーエントリービトナム  
カンボジア体験記  
申込方法  
※面接などを実施  
料金 25万円程度  
※市が半額程度助成  
申込期限 4月11日(金)必着  
定員 2人  
対象 中高生  
※保護者または生徒の住所が本市であること  
内 容  
ホームステイや青年海外協力隊員、NGO(非政府組織)の活動現場視察、現地住民との交流、異文化理解に役立つ施設の見学など



「一緒にバドミントンしよう!」カンボジアでのホームステイ4日目の出来事でした。現地の小学生に突然声を掛けられ、一緒に遊ぶことになりました。その間、公用語であるクメール語で会話をしましたが、あまり言葉が通じなくて別れる頃にはすっかり仲良くなり、子どもたちが家族のような存在に感じました。この体験を通して、以前より積極的にさまざまなことに恐れず挑戦するようになります。言葉が通じなくて別れる頃には、私の宝物です。



将来のためには、国際協力に関する仕事に就きたいという思いから、斯くて、国際協力に関する仕事をしていきたいと、この国で開発途上国を支援するといふ上から目標の見方をしていましたが、そうではなく、互いに受け入れ、協力し合い、現地に行くまでは、先進国で会話をしました。そこで、この国で生活習慣や価値観の違いを受け入れ、協力し合い、支え合う関係こそが本当の国際協力であることを学びました。また、電化製品が十分にない生活環境ではなかつたけれど、カンボジアの文化や生活には日本にはない良さが多くありました。このことを周りの人にも伝えながら、夢に向かって前進していきたいと思います。



▲市ホームページ

## 私のカンボジア体験記

鶴本七望  
つるもにななみ

木原綺音  
きはらあやね

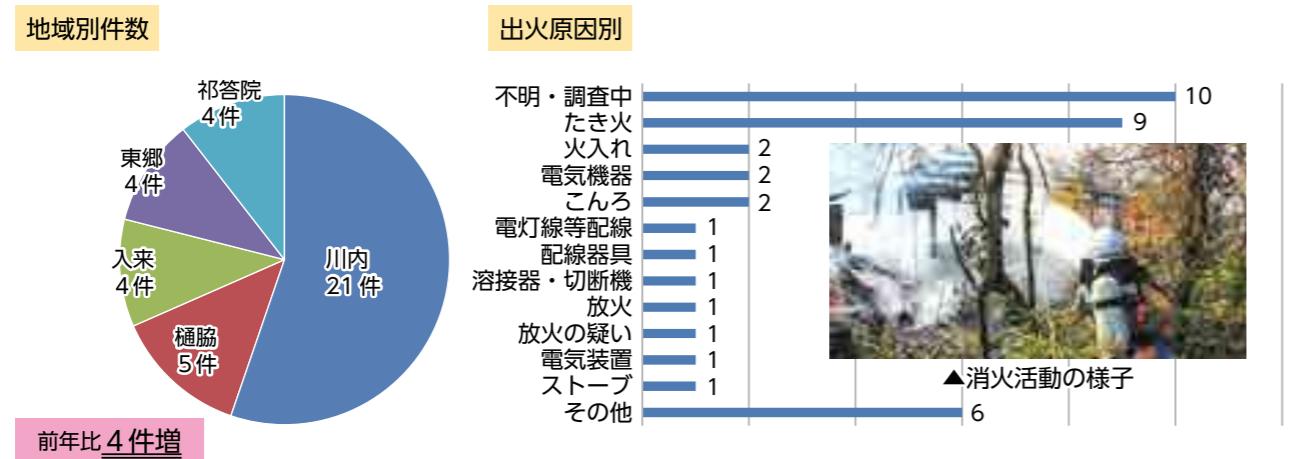




# 令和6年 火災・救急統計

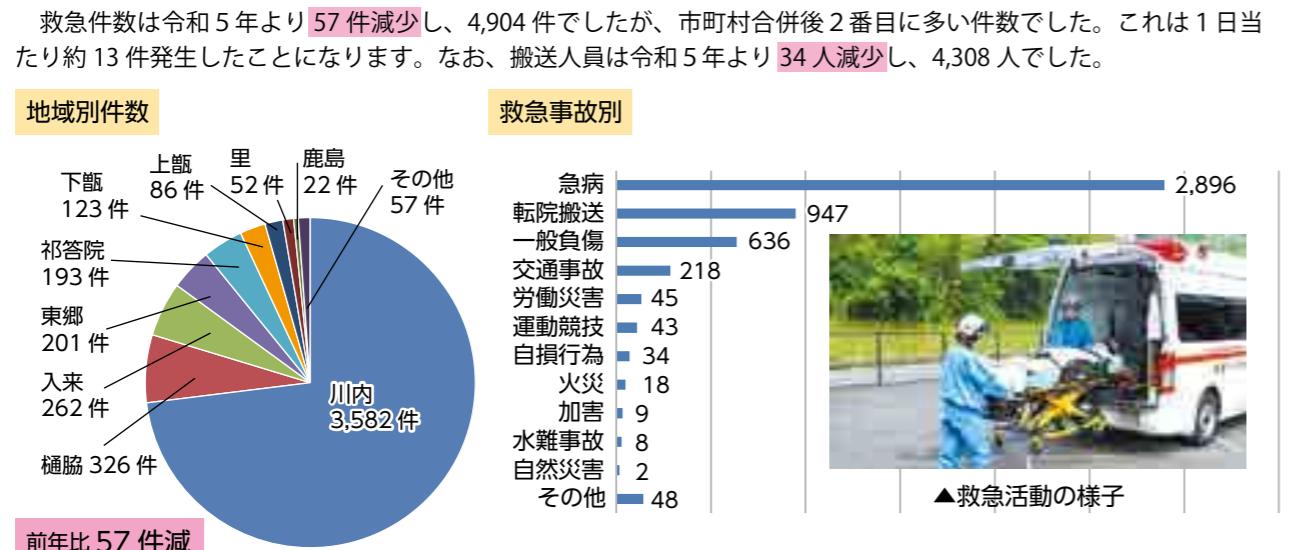
火災件数は令和5年より4件増加し、38件でした。おおよそ10日に1件の割合で発生したことになります。火災種別は建物火災16件、林野火災4件、車両火災3件、その他火災15件でした。出火原因是グラフのとおりで、「たき火」が原因の火災が多くなっています。たき火などの焼却行為は農作業に伴う軽微なものを除き、原則禁止されています。また、枯草焼きなどを行う際は、火災の煙と間違わないようにするために、消防署への届出が必要です。

**火災  
38件**



前年比4件増

**救急  
4,904件**



前年比57件減

## 新資機材を紹介します！「水中ドローン」



水中ドローンは、令和6年に本市在住の山室克己様より寄贈いただき、消防本部に配備し、海や川などの水難事故の際に活用しています。

本体に装着されている4Kカメラや超広角魚眼レンズ、AIの水中画像補正で、画像がより広く、鮮明に映ることで、要救助者の早期発見につながります。

水深100mまで潜ることができ、360度全方向に移動が可能になります。また、LED照明システムが搭載されているため、これまでできなかった夜間の情報収集も可能になりました。事故発生時には当局潜水隊と連携して、救助活動にあたります。

自主防災訓練や消防訓練の計画の際は、防災研修センターをご利用ください。



### 災害医療に従事

あることが怖い。いざとなつた時に動搖せずに行動し、一人でも多くの人の命を救えるようになりたいと思った」と話します。

そこで、勤務先の病院の許可を得て、長崎大学大学院に入学し、災害・被ばく医療科学を専攻しました。「大学院での2年間は仕事と家庭の両立で大変だったが、周りの協力があったから乗り越えることができた」と笑顔で話してくれました。

「母が保育士だったため、自分も目標そうと思ったが、看護師の資格を取ったことが看護師にならなかった」と話すのは済生会川内病院に勤務する小林さん。

済生会川内病院は、原子力災害医療の中心となって機能する「災害医療拠点および被ばく医療機関」に指定されています。

小林さんは、被災地で適切な医療・看護提供を行う災害支援ナースや大規模な災害や事故の発生時に、被災地に迅速に駆け付け、救急医療を行うための専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム(DMATT)の資格を持っています。

DMATTの資格を取るきっかけとなったのは、平成23年3月11日に起きた東日本大震災。「同じ日本でこのような災害に遭っている人たちがいるといふことに何とも言えない気持ちになつた。それと同時に、何でもきず何事もなく過ごしていく自分に複雑な感情があつた」と言います。さらに小林さんは、「もしもの時に分からぬこと

が怖い」と語ります。小林さんは、令和6年1月に発生した能登半島地震で、小林さんは石川県輪島市の病院支援に派遣されました。厳しい環境の中、看護師たちが疲弊しながら働く姿を見て、被災者でもあり、支援者でもあると感じたそうです。



▲長崎大学病院での研修の様子



▲愛犬と娘さんと写る小林さん(左)

### 原子力災害医療の普及

「仕事に励みながら、愛犬2匹と過ごし、子どもたちの夢を応援したい」と穏やかな日常を望む小林さん。

普段は病院勤務以外に、看護師や看護学生に向けて講義を行っています。「学んだことを

中で地域の人を気に掛けてほしい。災害時に一番大切なのは、地域の人とのつながり。手を取り合うことで人的被害は大幅に削減できる。何かあつてからでは遅いので、ハザードマップや原子力防災アプリを使って自分の地域の災害被害予想や避難経路を確認していくほしい」と言います。